

学区一部変更について

教育委員会よりの報告

二月十四日に行われた自治会役員会及び評議員会の席上、当市教育委員会より訪れた鈴木教育長、芦川課長、松野次長、鈴木係長により中学校区一部変更についての報告が次のようになされた。

(一) 冒頭、鈴木教育長は、挨拶に立ち、当市では人口十五万の市民をかかえて尚増え続ける現状にあること、従つて生徒数も毎年千五百人以上が増加し、教育の施設、設備などについても憂慮すべき点を述べ、また特に当香川地区に関係のある鶴が台中学校が生徒数の急増によりパンク状態にあり、その打解策として、小出下寺尾地区に新たに北陽中学校を新設し、この四月より香川の一部の生徒を当校に通学させることになったとの説明があった。

引き続き芦川課長などより、この学区変更にともなう説明や、種々の質疑がなされた。

(二) 学区一部変更の境界は北陽中学校に通学する学区について、香川地区を東西に走る中央の道路、即ち旧香川分校前の道路を西に香川駅（静岡相互銀行前通り）に至り、旧魚賢商店、佐久間商店を経て聖天橋に至る以北、東端は鶴が台団地より小出方面にぬける新道を境として、その以西である。

地区的には、中通り、殿内、北、東、篠谷の五地区が北陽中学校、間門、南、原の三地区が鶴が台中学校への通学となる。

(二) 学区を変更する学年及び人数
北陽中学校に新たに入学する
生徒については、五十年度小学
校卒業生、即ち新年度中学一年
生それ以後とする。
人数については、本年度小学
校卒業生六十名、鶴が台中学校
へは五十九名となる。
(三) 校卒業生及び安全対策について
通学路及び安全対策について
香川地区からの通学路は、香
川駅方面から北陵高校を経る道
路、または篠谷の切り通しが考
えられる。篠谷の切り通しにつ
いては、山間の道であり、人通
りも少なく危険度が高く、この
点については実際に踏査をし、
整備等、できるだけの安全対策
をほどこしたいとのことである。
(四) 学校規模及付帯施設について
施設としては、現在四階建て
鉄筋校舎九一十学級編成、体育
館については、校舎完成後早期
に建設をする。
その他、北陽中学校が小出・寒
川線道路に接するための騒音の問
題、あるいは市へ要請している香
川中学校新設問題について、質疑
がなされたが、新設問題について
は現在すぐにとってうわけにはいか
ないが、時期が来れば、検討し研
究していきたい旨の解答があつた。
以上この報告は、当自治会がこ
の学区変更問題について小学校 P
TAと話し合いを持ってほしいと
の意向に沿って、昨年十月以降話
し合われ、一応の承解点に達した
内容である。

は次の目次のように定まりました。そして昭和五一年三月末まで各分担者が独自の立場で原稿を作製し、これを委員会で総合的に検討して行くことになりました。検討といふのは各項目（目次）でそれぞれに記述された中で、重複するものやもつと書き添えたいこと、こんな内容のことがらはどの項目に入れたらよいかなどを調整検討することです。この調整検討については、これからも多くの回数の委員会を開いてやつて行かねばならぬと思いますが、最初に立てた完成予定の本年八月を目途としてすこめて行かねばなりません。

なにしろ香川としては初めてのいわば近世郷土史ですから、一般の人々に興味をもって親しまれよう編集することはもちろん、将来もつと進んだ研究の土台となるようなものにしなければなりません。現在既に、「香川の歴史年表」（亀井隆義委員）や「香川のあゆみ編集要説」（国末節委員長）などの印刷物（プリント）ができておる各委員の執筆に参考として役立てておりますが、一般の方々のご案示やご協力をのぞんでおります。

香和会について

香和会という会は、数年前からあります。よく駄などで「今日は香和会で湯河原へ行くんだ」などと聞かされ、何の会かなお年寄の会で温泉へ行く人達の会だろうか、程度に考えておられたと思います。この会が今年の一月一日から規約もできて新たな気分で再誕生したわけであります。

この会員の方々は、戦後の部落長さんが連絡長さんに変り、昭和三三年から自治会長となりました。が、その長をなさった方々により構成されたものであります。当時の香川の町づくりのために、自治会の指導的立場で、非常な熱意と努力を以つて香川づくりのために尽力された人々です。

当会は、香川自治会を後援し、香川居住者の親睦を一層深め、その人々の福利と生活文化の向上に寄与するためと、当会員相互の交

編集のその後の経過をおおむね記します。編集の内容と筆者の分担は次の目次のように定ました。そして昭和五一年三月末まで各分担者が独自の立場で原稿を作製し、これを委員会で総合的に検討して行くことになりました。検討といふのは各項目（目次）でそれぞれに記述された中で、重複するものやもと書き添えたいこと、こんな内容のことながらはどの項目に入れたらよいかなどを調整検討することです。この調整検討については、これから多くの回数の委員会を開いてやつて行かねばならぬと思いますが、最初に立てた完成予定の本年八月を目指としてすゝめて行かねばなりません。

茅花会

流を密にする目的のため結成されたものであります。香川自治会として誠に心強きまでのを感じると共に、先輩諸氏のご支援を心からお受けして行く考えであります。が、会員諸氏もこのとき理解者との親交をもち、何かご相談されることもあるやと存じます。次のお知らせする次第です。

なお、年表は年代別重要事項の表で、図表とは人口世帯数の変移やむかしの地図や絵図のことです。が、この外のことでもその他といふ項目と併せて、香川の方言、俚謡、写真はもちろんむかしから通称されている旧家の屋号など興味あるものが記載される予定です。

鳥去つて石の声する冬の庭
地蔵の影踏みぬ三寒四温かな
汽車過ぎて己がくさめに驚きぬ
冬川の石となりたる千鳥かな
子等が来て四角崩るる炬燵かな
ウイに翔ちウイに帰りる冬鷗
人形の紅ひく寒き人形師
藤村球一

百合
碩
鳥去つて石の声する冬の庭
地蔵の影踏みぬ三寒四温かな
汽車過ぎて己がくさめに驚きぬ
冬川の石となりたる千鳥かな
子等が来て四角崩るる炬燵かな
ウイに翔ちウイに帰りる冬鷗
人形の紅ひく寒き人形師
藤 村 球
一
一望の白を抜け来し初鶴
初夢や誰と語りし疲れかな
降る雪や猫の薄目の水色に
雪道をおどろおどろの鬼の面
夕暮れの祈りのごとく枯尾花
木枯しや黒人の唄千切れ来る
雪を被て石仏はみな生きるかな
柳 田 ふじ
一
物音の絶えて睦月に入りにけり
それぞれの顔持ち析る初詣で
路のとうあの娘この娘も母とな
浅利汁一つ一つのから重ね

計報

51年一月三日	岩崎正夫殿	三〇組	みや殿	九月より、次の方々が死亡されました。こゝに謹んで哀悼の意を表します。
一二月二十五日	熊沢正胤殿	四組	みや殿	九月一二日 佐藤美代恵殿
一月四日	龜井第四町内会	四組	みや殿	60才 第二町内会三一ノ三組
一月三十日	岩崎正夫殿	四組	みや殿	一〇月四日 後藤照殿
一月八日	中川ホノ殿	四組	みや殿	41才 第一町内会
一月二〇日	鈴木タケ殿	四組	みや殿	89才 第四町内会二六組
一月	64才 第二町内会三六ノ一組	四組	みや殿	た 間 庭 都 子 さ ん は 70 才 で し た な お 、 四 月 一 四 日 死 亡 さ れ

庭掃く児窓ふく児いて年の暮
元朝の富士へ大きく願い書く
餅花の大きくゆれるダンブカ
許いて戻るや夜の寒椿

水の子がしかられていて笑う
蕗のとうゆるく坂来る老二人
面接の待つ目を移す蕗のとう

咲き満つや青薄れゆく冬至梅
雪国の軒吊りの鮭故郷かな
水換えて紫澄めり寒鷗

去年今年村一本の瀬音かな
寒椿紅迫りくる海の町
餅花の供物乾びし道祖神

菜畑の日射し斜に寒に入る

塩辛のなれはじめしがなくなりぬ
舟盡の洞や冬の波頭

数珠玉の繋りきりたる枯の中
なまはげや藁沓の中つまだてる

梅へ来て光林の水となりにけり
去年今年縄あざなえるごときかな

冬薔薇口の軽きはうとまる

碕沢みや
司郎
大胡悦子

このように、この編集も具体的目
つ積極的になつてきましたのでお
しらせいたします。

香川を語る座談会

大根の日々に皺ます日和かな
灯を入れてやわき花影スイトピ
初春の雲うごかずに暮れにけり